

浦添市公園まちづくり研究会キックオフセミナー

1. 実施概要

- ・浦添市では、経塚駅・浦添前田駅周辺の地域において、地域の課題解決やにぎわいづくりなどの地域の魅力向上を図り、地域のニーズに対応したまちづくりを実現するため、経塚公園を核としたまちづくり（パークマネジメント等）を市民協働及び公民連携で進めるための取り組みを進めている。現在、整備が進められている経塚公園などを含む地域が主役となる利活用方法やアイデアなどについて、地域の方々や市内、県内外の幅広いみなさまから広く意見や提案をいただくきっかけとして、「浦添市経塚公園まちづくり研究会キックオフセミナー」を開催した。

2. 実施日程及び場所

日程：平成 31 年 1 月 26 日(土)

時間：13:00 - 15:30

会場：浦添市男女共同参画推進ハーモニーセンター（沖縄県浦添市安波茶 2 丁目 3 番 5 号）

3. 主なプログラム

- ◆ 浦添市挨拶
浦添市都市建設部 参事
- ◆ 基調講演「公園まちづくりの現状と可能性」
株式会社 新産業文化創出研究所 代表取締役 廣常 啓一氏
パークマネジメントと次世代公園研究会 プロデューサー 代表幹事
- ◆ 先進事例紹介「西東京市における市民協働・公民連携による公園管理運営の取り組み」
NPO birth 協働コーディネート部長/西東京の公園・西武パートナーズ本部
磯脇 桃子 氏
- ◆ 西東京市公園活用市民団体 ひばり日和。 瀬川 真未 氏
- ◆ 浦添市モノレール沿線地区における公園まちづくりの方向性について
浦添市都市建設部美らまち推進課長

4. 内容

◆開会のあいさつ

浦添市 都市建設部 参事 宮城 剛

- ・浦添市では、今年夏ごろ開通予定である沖縄都市モノレールの延長整備により新たに設置される 3 つの新駅を中心に、地域の特色を活かしたまちづくりを進めている。中でも経塚駅、浦添前田駅周辺地域にはにぎわい交流拠点や交通の結節点の整備、浦添グスク周辺の景観整備に加え、公園の新たな活用法であるパークマネジメントにより、本市の心のよりどころとなる浦添市の顔づくりの実現にむけて、庁内横断的に取り組んでいる。

- ・浦添市には 87 箇所の公園があるが、今後、市の財政面、人材面の制約等から、魅力ある公園整備や維持管理等に限界が生じることが懸念されている。これらの公園の問題をはじめ、本市のまちづくりにおいては行政のみならず、市民協働並びに公民連携のもとで、一体となって取り組んでいく必要があると考えている。
- ・整備が進められている経塚公園をはじめ、本市の全域に配置されている公園も視野にいれ、公園まちづくり研究会では周辺地域を含む市内外の幅広い方が公園の利活用方法を検討する機会となることを期待し、本日はキックオフセミナーを開催する。

◆基調講演「公園まちづくりの現状と可能性」

株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役 廣常 啓一氏

1. 公園を取り巻く環境変化と公園の課題

- ・パークマネジメントとは「公園を経営する」ということであるが、これからは市民のもちものという認識のもと、価値あるものにマネジメントしていく必要がある。
- ・公園を経営するにあたっての課題
 - (1) 都市公園の整備・維持管理の予算縮小：今後少子高齢化等が進み、税収減少に伴って公園整備や維持管理費は減少するが、医療費、福祉費、社会保障費などの増大が見込まれている。
 - (2) 公園利用者間、周辺住民とのいざこざ：時代の変化によって多様な価値観が生まれ、近年では禁止ばかりの公園が増えたり、公園自体が課題となってきている。
 - (3) 公園活用プログラムと活用主体の欠如：公園のハードは沢山整備されてきたが、活動プログラムや活用主体がいない。
 - (4) 公園経営への主体的参加意識の欠如：公園は行政サービスを受ける場であるだけでなく、これからは経営の意識が必要だが、主体的意識もまた活用団体も欠如している。

2. パークマネジメントの考え方と都市公園法の改正

- (1) 日本のパークマネジメントに影響を及ぼした海外のパークマネジメント事例
 - ・ブライアントパーク (NY)：街の方々（周辺不動産オーナーや入居テナントなど）がブライアントパークのために資金 (BID) を出してパークマネジメントを実施し、周辺地域の価値向上へとつながった。
 - ・セントラルパーク (NY)：様々なイベントプログラムが市民や民間企業によって行われている。公園関係者曰く、地域の教育や福祉、健康のために資金を導入した結果、公園の利用率もあがり、地域の安全や安心、不動産価値向上に結び付いたとしている。
 - ・オーストラリア (ビクトリア州)：州政府、連邦政府、市が「パークス・ビクトリア」として統合して、公園を管理。公園の予算のほか、保健部局の予算を使い、公園を活用した時とその他の健康予算の使い方で経済的効果の検証や、公園で健康になる医学的エビデンスの研究などを始めている。
 - ・シンガポール：シンガポールでは都市開発計画の中に緑化計画を積極的に取り入れ、「ガーデン・シティ」から「シティ・イン・ア・ガーデン」へのコンセプトに成功している。

(2) 国内のパークマネジメント、パーク PFI の動き

- ・小泉内閣の時に急速に進んだ公営組織の法人化、民営化の一環として指定管理者制度が始まった。また 2018 年には都市緑地法等の一部改正として、都市公園法も一部改正された。
- ・国交省では、今までは 1 公共施設 1 予算だったが、今後は 1 つの施設で官民間問わず複数の機能を持たせることで、公共空間の有効利用を推進している。
- ・大阪の事例では、大阪城公園、天王寺公園エントランス開発、万博記念公園の指定管理業務と周辺エリア開発など、毎年行政に多額の固定納付金や売り上げ歩合を納めたり、指定管理の無償受託など、今まで行政負担となっていた公園等の管理費が、公園収入として収入を得るようになってきている。
- ・南池袋公園では、地元の方が集まり「南池袋公園をよくする会」を発足させて公園利用のルール作りなどを行っている。また公園魅力づくりとなるカフェ事業者を選定し、安全で賑わいのある公園となっている。池袋西口公園は、公園ルール作りなどを行う協議会自身がパークマネジメント事業を行っている事例となる。

(3) パークマネジメントの課題と戦略づくり

- ・公園を経営するにあたっては、地域の合意形成が必要となる。
- ・パーク PFI を望んだところで、民間事業者は事業の採算性を考えるので、手を挙げてくれるとは限らない。
- ・地方都市や住宅地等でのパークマネジメントは、公園経営のポテンシャルを把握し、戦略的に進める必要がある。その一つとして、行政の従来の公園管理予算とは別に、地域の課題解決に支出される観光振興や農商工業等産振興、健康医療福祉、子育て高齢者対策、教育、まちづくりの予算や事業の活用場所を公園や公園内施設、設備に組み合わせ、多様な民間の参画により合理的効果的にパークマネジメントを行うことが考えらえる。
- ・公園で全ての要望を実現することは不可能なため、他の市との差別化を図れるような明快なコンセプトを打ち出すことも必要がある。
- ・市民との様々な協働、民間事業者との連携、求める機能を実現できる地元企業が見つからない場合は地域外からの誘致、あるいはコミュニティビジネスの育成、医療機関や福祉機関（屋外の公園などを活用してリハビリや介護などを行う。）と地域連携などを行いながら公園経営を行って行くことが望ましい。
- ・公園活用の可能性を広げるために、公園関係者もボランティア、地元企業の従業員、来街者、他地域の専門家など、関係人口を増やす努力も必要である。

●保育所などの占有が可能に。

●飲食店等の収益施設の設置(パークPFI)

設置期間が10年 から 20年に
建蔽率が 2% から 12% に
条件として、園路、広場等の公園施設の整備を
一体的に行い、収益の一部を公園整備への還元

●民間事業者によるパークマネジメントの実施

●公園運営に関する「公園協議会」の設置、 地域にあったローカルルール

協議会は公園管理者、学識経験者、商工関係団体、住民団体
公園利用の利便の向上に資する活動を行う者などによって構成し民間事業者の公園での取り組みや地域との調整を行う

●大規模公園施設の

PFI事業による設置管理許可期間の延伸

- ・10年から30年に
- ・主にプールや水族館、運動施設等の大規模公園施設

●都市公園の維持修繕に関する技術的基準の策定

- ・遊具の安全確保、公園施設の安全点検に関する指針など。

- ・今までは、公園設計後の公園活用が検討されてきたが、今後は地域の課題を行政と市民が話し合い、それに基づく公園計画を作り、公園整備をし、市民協働、公民連携で公園経営を行う時代となっている。

4. 地域共創プラットフォームの形成と研究会

- ・様々な主体が参画する場、共創の場として、研究会をスタートさせる。
- ・そこから公園協議会を派生させる。公園協議会では、地域の実情や戦略に応じたローカルルールを策定し、パークマネジメント事業者を選定、評価、地域との調整、経営支援を実施していく。

5. 浦添市での取組み開始に向けて

- ・浦添では、それぞれの主要な公園でパークマネジメント計画を地域ごとに作って行くが、さらに全体で考えるコンセプトも必要である。
- ・景観まちづくり地区との連動、モノレール沿線上の新たな緑のルートなども作っていければ、浦添ブランドを作って行くこともできる。
- ・コンセプトの一つの例として、シンガポールのような「琉球庭園都市」が考えられる。そこでガーデンファニチャーやお土産、食、音楽、芸術など、新たな産業も生まれる。
- ・一つ一つの公園は皆さんにアイデアを出していただきながら、全体として専門家なども入りながら作って行くのが良いのではないかと思う。

◇質問

(1) 地元自治会男性

沖縄県内の中でも浦添市は攻める位置が重要視されてくるのではないかと思った。PFI とパーク PFI の違いを知りたい。

- ・PFI とパーク PFI では、根拠法が異なる。PFI 法に基づく PFI では、公共施設を作るときに民間がお金を出して建てるが、お金を返すのは行政側となる。パーク PFI は都市公園法に基づき、公共施設を作る時に行政は民間事業者を設置許可（建築しても良いという許可）を出し、民間が施設を建て、行政はお金を支払わない。民間事業者が運営を行い、そこで儲かったお金の一部は公園に還元することが求められる。地元が要望を出さないと迷惑施設が来ることになってしまうので、協議をしながらパーク PFI は作って行けるのも特徴となる。

(2) カゼモニワ（庭デザイン関連業）

核となるコンセプトやテーマは市民と協議して作るのか、行政側からがまずは提案するのか、どちらになるのか。

- ・浦添市の考えと、ここで述べるのは違うかもしれないが、どうやって決めていくかのルールはない。色々な意見を一つのコンセプトに横串を入れていくことも考えられるが、多様な意見となる可能性があり、それはかなり難しい。抽象度の高いコンセプトであれば広い解釈が可能となる。柔軟な対応ができるような言葉をコンセプトワードの中に入れて、それぞれが解釈を加えていく方法となる。これらのことは、地域、地域間の方々と協議していくのがよいと思う。

◆先進事例紹介「西東京市における市民協働・公民連携による公園管理運営の取組み」

NPO birth 協働コーディネート部長/西東京の公園・西武パートナーズ本部 磯脇 桃子 氏

1. NPO birth とは

- ・西東京市に拠点を構え、昨年で 20 周年を迎える環境保護系の団体となる。
- ・公園は、自然環境のほかに、コミュニティ、健康・レクリエーション、教育、文化芸術、防災、経済効果などの場としての力を持ち、公園力を高めることで街の魅力も高まると考えている。公園力を高めるために、3つのチームとしての取組を行っている。
 - (1) レンジャー・環境教育チーム：人と自然をつなぐ／レンジャーが、環境教育や保全活動を行っている。
 - (2) 協働コーディネートチーム：より深く、緑づくり、まちづくりに関わってもらうためのきっかけをつくる。ボランティアの育成や、地域を巻き込むイベント開催などを行う。
 - (3) 自然環境マネジメントチーム：地元の自然環境を調査研究し、協働コーディネートチームと連携して地域の方と共によりよい自然環境を作っている。
- ・まちに、まちの緑、地みどりを増やしていく活動を行っている。(まちに地みどりマップ)

2. 指定管理している公園

<都率公園>17 公園

- ・武蔵野公園グループ（6 公園、2 緑道）
- ・狭山丘陵の都立公園グループ（5 公園）
- ・多摩部の公園グループ（4 公園）

<市立公園>54 公園

- ・西東京市立公園グループ（54 公園）

3. 西東京市立公園の指定管理業務について

- ・いこいの森公園及び周辺公園 54 公園を指定管理者として管理している。西東京市には市立公園が約 270 か所あり、そのうち 54 公園を管理している。
- ・西東京市が指定管理を導入した目的は、以下の3つとなる。
 - (1) 市民協働の積極的な推進
 - (2) 自主事業活性化による市民サービスの向上
 - (3) 公園管理経費の抑制
- ・西東京での指定管理は、西東京の公園・西武パートナーズで業務を行っている。西東京市は平成 28 年 4 月 1 日より初めて指定管理者制度を導入し、3 団体（代表企業：西武造園株式会社、構成企業：NPO birth・株式会社尾林造園）でコンソーシアムを組んで管理を行っている。NPO birth と尾林造園は、西東京市の地元の企業である。
- ・みどりの保全、地域コミュニティの再構築、防災対策の推進、少子高齢化への対応、まちの魅力向上という 5 つの視点を持ち、管理運営を行っている。

4. 実際の取組について

(1) いこいの森公園の取組

- ・西東京市最大の 4.4ha の公園。懇談会で地域の方々が様々な意見を出し、設計され作られた公園となる。色々なコンテンツが入っている公園。
- ・懇談会をきっかけに市民団体「西東京いこいの森公園を育てる会」ができた。共に管理作業を行ったり、団体の課題の抽出などを行い、地域団体の取組の活性化につなげている。
- ・西東京市全域の公共の花壇づくりを行っている「西東京花の会」と協力して公園管理をしたり、インラインスケート運営団体ほか、資金不足、利用者減少、認知度不足などの課題を抱える団体の支援活動を行っている。
- ・ミズノ株式会社との有料プログラム、市民団体との無料プログラムなども開催している。
- ・いこいの森公園には、無料の BBQ スペースのほか、株式会社デジサーフが運営している有料の BBQ コーナーもある。収益の一部は公園に還元されている。

(2) みんなで育てる小さな公園プロジェクト

- ・小さな公園は、目が届きにくく公園が荒れやすい、近隣からの要望が多いなどの課題を抱えている。
- ・西東京市ではその課題に対して、小さな公園実態調査ワークショップを市民向けに実施した。市民は実際に調査を行い、その調査結果をもとに市は西東京市公園配置計画を策定した。
- ・指定管理者では、小さな公園を使うためのプロジェクト「みんなで育てる小さな公園プロジェクト」を立ち上げた。市民の提案を西東京市と指定管理者で受け、調整をしながらプロジェクトの承認を行う。実施にあたっては、市民が企画立案、当日運営まで全て行う。美化活動や警備な管理活動もセットで行ってもらうこととしている。市との調整のほか、備品の貸し出しなども行っている。
- ・具体的な3つの取組

(1) 「ひばり日和。」との連携：市が開催したワークショップで立ち上がった市民団体。武蔵野大学、地元の農家と実施している。イベント前にブランコのペンキ塗りや草むしりを行い、イベント当日は綺麗な状態で実施する。

(2) 団地再生のエリアマネジメント団体「まちにわ ひばりが丘」との連携：古い団地を活用したエリアマネジメント施設と公園（ひばりが丘西けやき公園）が隣接していることもあり、施設と公園が連携してまちの活性化を行っている。公園の軽微な維持管理作業は、エリアマネジメント団体の方で行っている。

(3) 「西東京花の会」との連携：ほとんど使われていない特徴のない公園をハーブガーデンに変える作業

ひばり日和。コーディネーター 瀬川 真未 氏

1. ひばり日和。とは

- ・西東京市の小さな公園を使って活動している、5人グループの団体となる。全員が土日などの余暇を使って活動を行っている。目指しているのは、地域の方が「住んでいてよかった」「住み続けたい」と思えるような街づくりをすること。
- ・ひばり日和。は、西東京市主催の「公園実態調査」に参加し、実地調査、国内外の公園活用の先進事例

を知る中で、「西東京市の小さな公園」を活用して、「食」をテーマに、「まちづくり」という視点をもって活動し始めた。

2. 活動の3つの特徴

(1) イベント前よりもきれいな公園へ

- ・イベント当日、イベント前に、近隣と共に公園の美化活動を行っている。
- ・イベント前に行う近隣へのチラシ配布作業も、賛同者をふやす大切な活動の一つ。
- ・指定管理者には、チラシ印刷や、西東京市との様々な調整をおこなってもらっている。

(2) 地域ごとのイベントテーマ設定と交流

- ・住民の特徴に合わせて、イベントテーマを設定。
- ・武蔵野大学建築デザイン学科の研究室と連携し、参加者同士が交流できる会場デザインを実現。

(3) 地域とのコラボレーション

- ・農家とコラボ
- ・商店とコラボ。「お墨付きシート」を貼って販売。

3. イベント開催の様子

- ・普段は閑散としている小さな公園に、多くの地域の方が集まった。参加者からは「この地域に住んでよかった」などの多くの喜びの声が集まった。

4. 今後の活動

- (1) 「楽しいまちづくり」賛同者、民間事業者とのコラボレーション：同じモチベーションの方と協力関係を築き、楽しいまちづくりを行って行く。
- (2) 小さな公園を活用する団体を増やす：小さな公園のいたるところで楽しいイベントが開催されるようにしていく。
- (3) ひばり日和。の組織、活動の拡大・強化：組織体制強化と共に、商品開発にも力を入れていく

◇質問

(1) 地元自治会女性

小さな公園は、普段どの程度使われているのか、イベント時にはどのくらいの範囲の方が参加されるのか、イベントに来る時に移動方法を教えてほしい。

- ・普段の使われ方は、小学生が帰宅途中に立ち寄る、散歩がてら立ち寄る、ベンチで本を読む、程度の使われ方となっている。
- ・ひばり日和。の活動などを通して、公園を知る、足を運んでもらうきっかけとなっている。
- ・近隣の皆さまほとんどである。離れた街から情報を聞きつけて参加してくださる方もいる。
- ・交通手段としては、近隣が多いので徒歩か自転車となる。

(2) 地元自治会男性

ひばり日和。と自治会とのつながりはどのようになっているか。

- ・自治会へはご挨拶を伺う程度となっている。「まちをよくしていきたい」という目的は一緒であり、ひばり日和。がでること、自治会ができることは別だと思うので、うまく連携しながらやっていきたい。

◆ 浦添市モノレール沿線地区における公園まちづくりの方向性について

浦添市都市建設部美らまち推進 課長 安里 宗健

- ・浦添市においては、沖縄都市モノレールの延長ルートの夏ごろの開業にむけて整備を進めている。
- ・浦添市には3つの駅、経塚駅、浦添前田駅、てだこ浦西駅ができる。その中で浦添市の新たな玄関口となる経塚駅には経塚公園が隣接し、現在その公園整備に取り組んでいる。
- ・浦添市としては、経塚公園の立地特性を活かし、地域のいこいの場となることはもとより、来訪者にとってもより魅力的でにぎわいのある公園整備ができないか検討している。
- ・国では、公園緑地行政は新たなステージへ移行すべきとしている。平成29年6月に都市公園法が改正され、パークPFIが新設された。これは、市の財政状況が厳しい中、既存施設の老朽化、維持管理費の増大、新たな公園整備費用への投資には限界があるため、都市公園の魅力向上を持続的に進めていくために、民間資金の活用を進めていくために創設された制度である。
- ・パークPFIの特徴は、飲食店、売店等の設置管理を公募で選定した事業者に対し、施設から得られる収入を公園整備等に還元することを条件に、3つの特例を適用できるものとするものである。
 - (1) 設置管理期間を10年から20年に延長
 - (2) 公園敷地に対して施設の建蔽率を今まで(2%)より10%上乗せ
 - (3) 看板や広告などが設置可能
- ・パークPFIで、公園管理者は財政負担軽減、民間アイデアによる公園サービスの向上となり、民間事業者にとっては長期的視野での施設への投資・経営、公園との一体的利用による収益の向上につながる。公園利用者にとっては、飲食施設の充実など、サービスの向上、利便性の向上、安全性の向上など。
- ・経塚公園においては、市民とのワークショップで作成した計画を基本として、パークPFIを活用した施設を付加し、よりよい地域のいこいの場として、また来訪者の交流の場となる安心安全で賑わいのある公園の実現を目指し、行政だけでなく市民、事業者と連携して検討し、その後の管理運営に繋がっていきたいと考えている。
- ・このような管理運営の考え方はパークマネジメントと言われており、行政主導の公園管理から脱却し、市民、事業者の参画の拡大、多様な資金調達とサービスへの還元、経営改善手法など利活用を重視した公園資源を最大限活用する新たな管理運営の考え方となる。
- ・パークマネジメントは浦添市としては初めての取組なので、まずは公園まちづくり研究会として市民協働部会と公民連携部会の2つの部会を立ち上げ、ゆるやかに連携しながら最終的に公園をマネジメントできる組織を設立していきたい。
- ・今後の公園まちづくり研究会の構成と進め方は、まずは市民協働部会を立ち上げ、経塚公園に対する地

域的な課題、市民の要望、利活用等について整理を進めていきたい。市民協働部会の構成は、自治会、まちづくり活動団体、学校関係者及び公的機関や団体等の代表で考えている。今年度末までには開催を予定。

- ・公民連携部会は、市民協働部会での課題、要望に対し、課題解決のアイデアの提案や公園の魅力の創出に対する提案を提供していただきたい。構成は、NPO や市民団体、経塚公園に関心のある民間事業者等。開催時期は市民協働部会の進捗に応じ、開催する。
- ・浦添市としては、経塚公園のパークマネジメントを出発点として、市内各公園で検討すると共に、特に前田公園のパークマネジメント、将来的には浦添グスクやカルチャーパークなどを含むウラオソイ交流ゾーンにおける浦添の顔づくりに繋がるエリアマネジメントにも発展できればと考えている。

◇質問

(1) 地元自治会男性

パークマネジメントは公園の活性化につながると思うが、那覇市などで事例はあるか。

- ・県内においては、事例はない。
- ・パーク PFI ではないが、福州園の横のクニダテラスは、公園の中の設置管理許可で事業者を入れ、得た収入の一部を公園管理に充てている事例となる。収益の還元は行っているが、福州園の運営とクニダテラスの活動が一体化しているわけではない。

(2) 地元自治会男性

パークマネジメントは日本全国でどのくらいあるのか、また施設が老朽化したり、まちが変化することによってずっとメリットが続くことでもないと思うが、そのあたりの事例があれば聞かせていただきたい。

- ・パーク PFI の前に、指定管理制度が導入された。「経営」という概念があまりなかった指定管理制度がパークマネジメントと言われることもあるが、都市公園法が改正されて始まったパークマネジメントは、ほとんどの市町村で取組が始まったばかりである。
- ・大きな公園でのパークマネジメントは、ほとんどの自治体で実施していると思う。
- ・経営的に成り立つ公園に対しては、民間企業は協力をするが、経営が成り立たないところへは関心を寄せない。それを改善する方法の一つとして、公園以外の部局も、例えば健康に関する部局と一緒に協力することによって民間事業者にとっても魅力ある案件となりうる。
- ・浦添や沖縄では、このような次のステージの方法で行うべきではないかと考えている。浦添あるいは沖縄で行う取組が、もしかしたら全国の今後まちや住民のニーズへの柔軟な対応のモデルになる可能性もある。指定管理者制度は5年で事業者見直しをするケースが多いが、5年ごとに公園の再整備や運営方法の見直しをかけることができるので、住民構成などが変わったときに柔軟に変えていくことが可能となる。

(3) 観光協会関係者

NPO birth は3社で指定管理を受けているとのことだが、イベントの告知などにおいて、西武グループ

の協力はどのくらいもっているのか。

- ・西武造園と西武鉄道は会社が別であるため、あまり協力をいただけていない。個別に相談をして、駅にポスターを貼ったことはあったが、その対価はお支払いした。

(4) 浦添グリーンハイツ自治会

若い方や女性がこのような活動に参加するのに、どのような呼びかけをすればよいと思うか。

- ・私たちに火がついたのは、自分たちも何か挑戦できるのではと思ったことにある。小さな公園が使われていないという課題は、西東京市に限ったことではないので、自分たちの活動が全国な小さな公園の活性化に寄与できるのでは、という淡い期待を持っている。若い方たちに対しては、自分たちも挑戦できるようなそんな仕掛けをしてあげれば、活動に参加するのではないかと思う。
- ・都立公園で取り組んでいるプロジェクトとして「公園あったらいいなプロジェクト」というのがある。若い方の中には「公園でこういうことができればよいのに」などの意見を持っているので、公園でやりたいという要望を公園で受け、実現に向けたアドバイスをし、提案者には企画書、予算書、会場配置図を提示してもらっている。市民の方が自己実現できるしくみができていると、若い方も動きやすい。今後は公園協議会などが受け皿になって行けば、公園も元気になっていくのではないかと思う。
- ・公園協議会というと、自治会中心となっている協議会もある。公園協議会には違うプレーヤーを入れることによって、自治会とは区別されたものとなる。メンバーとしては、例えば大学の先生などの有識者などが入っていることもある。発展形としては、自治会あるいは公園協議会が、地域のチェック機能や調整機能、例えば民間事業者の選定などにもメンバーとして入ることが望ましいと考えている。民間事業者を切り替えるようなことも権限的に持つようなものである。同時に、地域との調整をするのも、公園協議会の役割として行う。
- ・浦添独特なものとしてさらに期待することは、コミュニティビジネスのプラットフォームになることである。若い方はずっとボランティアであると継続しないが、ライフワークとして活動し、資金も得ることができれば活動する人も増えるのだとも思う。
- ・お父さんの力を活かせるような公園の活動とすることによって、若い方を呼び込めるのではないかと思う。